

## コンクリートライブラリー 101

## 連続繊維シートを用いたコンクリート構造物の補修補強指針

## 正誤表

ページ	行等	誤	正
	小委員会委員構成 (部会も含む3箇所) 目次のページ(4)	宇治公隆(大成建設 株)技術研究所)	宇治公隆(東京都立大学)
39	上から 10 行目	5.4.3 アラミド繊維シートで補強された 部材の設計じん性率の算 $C_{lim}$ : 鋼材発生腐食限界塩化物イオン濃 度.	5.4.3 アラミド繊維シートで補強された 部材の設計じん性率の算定 $C_{lim}$ : 鋼材腐食発生限界塩化物イオン濃 度.
62	下から 4 行目	最大引張強度	引張強度
71	下から 2 行目	最大引張強度	引張強度
78	上から 3 行目	および載荷速度	(削除)
"	上から 6 行目	目付け量,	(削除)
81	上から 13 行目	7.3 について	7.4 について
86	上から 2 行目	7. 測定結果の処理	試験結果の整理
"	下から 3 行目	最大付着強度	付着強度
"	下から 2 行目	破壊の状態	破壊形態
91	下から 3 行目	最大接着強度	接着強度
101	下から 14 行目	最大引張強度	引張強度
"	下から 3 行目	最大引張強度	引張強度
104	下から 3 行目	最大引張強度	引張強度
105	下から 3 行目	最大引張強度	引張強度
110	下から 9 行目	最大引張強度	引張強度
111	上から 3 行目	最大引張強度	引張強度
136	下から 11 行目	破壊に関する安全性	破壊に関する安全性
"	下から 1 行目	破壊に関する安全性	破壊に関する安全性
137	図 4.2.1, タイトル	段落し部照査位置	段落し部曲げ耐力照査位置
182	上から 17 行目, 式中	$(f_{cfuk}/\gamma_{mcf})$	$(f_{cfuk}/\gamma_{mcf})$
"	上から 18 行目, 式中	$(f_{cfuk}/\gamma_{mcf})$	$(f_{cfuk}/\gamma_{mcf})$
"	表 7.3.1, 4 行目	0.2807	0.2807 mm
190	図 1.1.1, 柱配筋図中	7@71.4=5000	7@71.4=500
"	下から 3 行目	機密性	気密性
194	上から 2 行目	水平震動	水平震度
195	上から 12 行目	図 4.1.1	図 4.2.1
218	上から 8 行目	$C_{lim}$ : 鋼材発生腐食限界塩化物イオン濃 度で,	$C_{lim}$ : 鋼材腐食発生限界塩化物イオン濃 度で,
"	上から 11 行目, 式中	$0.1 \times 57$	$0.1 \times 63.5$
"	上から 15 行目	$70 - 13 = 57$ (mm)	$70 - 13/2 = 63.5$ (mm)
"	上から 21 行目, 式中	$4.5(W/C)^2$	$4.5(W/C)^2$
300	上から 9 行目	$G_f = \dots$ $= \int_{x=\infty}^{x=0} E_f t_f \frac{du_f(x)}{dx^2} \frac{d\delta(x)}{dx} dx$	$G_f = \dots$ $= \int_{x=\infty}^{x=0} E_f t_f \frac{d^2 u_f(x)}{dx^2} \frac{d\delta(x)}{dx} dx$
"	上から 18 行目	$G_f = \frac{2G_f E_f}{t_f}$	$G_f = \frac{P_{max}^2}{8b^2 E_f t_f}$
54			別紙の参考文献を挿入

## 6章の参考文献

- 1) Zhishen Wu and Hedong Niu : Study on Debonding Failure Load of RC Beams Strengthened with FRP Sheets, Journal of Structural Engineering, JSCE, Vol.46A, 2000
- 2) 大野 了・山本忠久・小島克朗：炭素繊維を巻き付けて拘束したコンクリートの圧縮性状，土木学会第 47 回年次学術講演会講演概要集第 5 部，pp.736-737，1992.9
- 3) 細谷 学・川島一彦・星隈順一：炭素繊維シートで横拘束したコンクリート柱の応力度-ひずみ関係の定式化，土木学会論文集，No.592/V-39，pp.37-52，1998.5
- 4) 勝俣英雄・小島克朗：新素材による既設鉄筋コンクリート柱の耐震補強に関する研究（その 3 炭素繊維を巻付けた部材のせん断耐力の検討），日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），21133，pp.825-826，1988.10
- 5) 安藤博文・前田良文・緒方紀夫・岡野素之・小島克朗：炭素繊維によるせん断補強効果に関する研究，土木学会第 49 回年次学術講演概要集第 5 部，pp.934-935，1994.9
- 6) 岡野素之・大内 一・森山智明・松本信之：炭素連続繊維シートによる鉄道高架橋のせん断補強，コンクリート工学年次論文報告集，Vol.19，No.2，pp.249-254，1997.10
- 7) 小田 稔・岡本 直・山中久幸・朝倉 晃：アラミド繊維巻付けによる既存 RC 柱のせん断補強，コンクリート工学年次論文報告集，Vol.15，No.2，1993.10
- 8) Umezu, Fujita, Nakai and Tamaki : Shear Behavior of RC Beams with Aramid Fiber Sheet, Japan Concrete Institute, Non-Metallic (FRP) Reinforcement for Concrete Structures, Proceedings of the Third International Symposium, Vol.1, pp.491-498, 1997.10
- 9) 中島規道・中井裕司・渡辺忠朋・松本信之：アラミド連続繊維シートによる鉄道高架橋柱のせん断性状，コンクリート工学年次論文報告集，Vol.19，No.2，1997.10
- 10) 上原子晶久・下村 匠・丸山久一：連続繊維シート補強コンクリート部材のせん断耐力の評価法に関する研究，土木学会論文集，No.648/V-47，pp.217-226，2000.5
- 11) 森 成道・松井繁之・若下藤紀・西川和廣：炭素繊維シートによる床版下面補強効果に関する研究，橋梁と基礎，pp.25-32，1995.3
- 12) 建設省土木研究所・炭素繊維補修補強工法技術研究会：コンクリート部材の補修・補強に関する共同研究報告書（I）—炭素繊維シート接着工法によるコンクリート部材の補強効果に関する研究—，建設省土木研究所共同研究報告書 整理番号第 220 号，1999.3
- 13) 建設省土木研究所・炭素繊維補修補強工法技術研究会：コンクリート部材の補修・補強に関する共同研究報告書（III）—炭素繊維シート接着工法によるコンクリート部材の補強効果に関する研究—，建設省土木研究所共同研究報告書 整理番号第 235 号，1999.3
- 14) （財）鉄道総合技術研究所：炭素繊維シートによる鉄道高架橋柱の耐震補強工法設計・施工指針（付属資料 7），1996.7
- 15) （財）鉄道総合技術研究所：アラミド繊維シートによる鉄道高架橋柱の耐震補強工法・施工指針（付属資料 7），1996.11
- 16) アラミド補強研究会：アラミド繊維シートによる鉄筋コンクリート橋脚の補強工法設計・施工要領（案）（付属資料 6），1997.8
- 17) 増川淳二・秋山 暉・斎藤 宗：炭素繊維シートとアラミド繊維シートによる既存 RC 橋脚の耐震補強，新素材のコンクリート構造物への利用シンポジウム論文報告集，pp.193-198，1996.11
- 18) 長田他：炭素繊維シートで補強した鉄筋コンクリート橋脚の耐震性能，コンクリート工学論文集，pp.189-203，1997.1
- 19) 袴田文雄：壁式橋脚の RC 耐震補強および CFRP による RC 耐震補強の実験と解析，コンクリート系構造物の耐震技術に関するシンポジウム論文報告集，1994.4
- 20) 大野他：炭素繊維による RC 橋脚の耐震補強に関する実験的検討，土木学会第 51 回年次学術講演会論文概要集第 5 部，pp.950-951，1996.9
- 21) 日本建築学会：鉄筋コンクリートの終局強度設計に関する資料，8 鉄筋品質の変動，pp.34-36，1987.9
- 22) Atsuhiko Machida , Hiroyuki Ikeda , Nobuyuki Matsumoto and Hiroshi Nakai : Seismic Retrofitting of Reinforced Concrete Bridge Piers by Wrapping of Aramid Fiber Sheet, Developments in Short and Medium Span Bridge Engineering '98